

山に囲まれた 森林の町で食べる おいしいもの

先ごろ仕事で中川町へ出かけた。実は美深^{びふか}以北には随分前に一度あるが、中川町に訪れたのは初めてだ。

森林が84%を占めるという町らしく、町営牧場の跡地の小高い山の上から街を眺めると山と山の合間、天塩^{てしお}川に沿って民家が散りばめられている。遠くには中川町の山、ペンケ山とパンケ山が見える。ぐるっと360度山々を眺めていると、向こうの山の中腹の草地に黒い動くものを発見！よくよく見ると大きな熊が森に向かってゆっくりと歩いている。熊を始め、森の生態系にお邪魔しているんだと改めて心する。

その後、北海道大学の中川研究林へ、森の樹木の植生を教えていただきながら見学した。中川町の樹木の豊かさを感じる。木工が息づく訳だ。途中、こくわの蔓^{つる}が巻き付く木を見上げると、子熊の爪痕がたくさんついている。こくわの食べごろを待ち侘^わびて何度も木に登るという話を聞き、首を長くしている子熊たちを想像すると微笑ましく思うと同時に、熊と出会わないことを祈った。

道の駅に行くと『ジバガチャ』という中川町の特産品の自販機がある。なんとステーキ肉やジンギスカン、チャーシュー、スープカレーなどが買えるのである。道の駅にはレストランもあり、地場の素材を使ったメニューが人気だ。また自社で作っているソーセージなどの加工品もとても美味しい。地元の方のおすすめの中川町の牛乳で作るソフトクリームは絶品だった。

初めての中川町は森の町のイメージだったけど、帰るころには美味しい町にイメージが塗り替った。旅で出会う風景とリンクして出会った美味しさが加わると、その町の印象が強に残るのだなぁと思った。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile:ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。